

ユーラシアを歩く会 行動報告書

The Trans-Eurasia Walking Journey Program

1. 計画コース概要

提出日:

地域分類	日本西部	区間番号	6-②
実施期間	2010年10月30日～11月5日		
計画区間	出発地 大山寺川床	到着地 鳥取砂丘	参加人数 5名

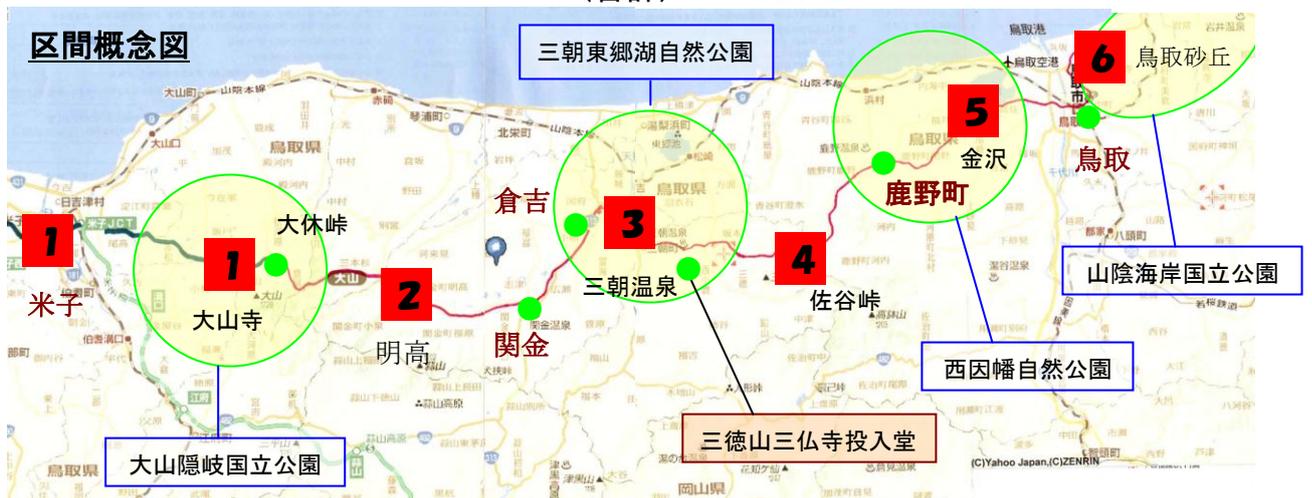
2. メンバー表

No	役割・分担	氏名
1	リーダー	友松知宏(8期)
2		江守善昭(5期)
3		鹿島静哉(8期)
4		横山泰一(13期)
5	運搬	友松和子

3. 現地での歩行結果

	年月日	出発～到着	区間距離 Km	天候	宿泊
1日目	10月30日	米子駅～(バス)～大山寺	—	くもり	朝霧山荘(大山)
2	10月31日	大山寺川床～関金明高東口	20.0	雨	グリーンスコレせきがね
3	11月1日	明高東口～三朝温泉	24.0	くもり	プランナール三朝
4	11月2日	三朝温泉～佐谷峠(三徳)	16.0	くもり	三徳山三仏寺輪光院
5	11月3日	佐谷峠～湖山池金沢	22.0	くもり	レーク大樹
6	11月4日	金沢～鳥取砂丘	23.0	晴れ	東横イン鳥取
7	11月5日	市内観光(檮谿神社他)	—	晴れ	

(合計) 105.5Km



4. 見聞録

ルートの状況

コース概要

車の往来の激しい国道 9 号線をさけて、中国自然歩道に沿って歩いた。

出発点は伯耆大山（だいせん）川床。大休峠を越えて関金に抜け、更に倉吉から三朝－三徳山－佐谷峠－鹿野町－湖山池－鳥取市街を經由して鳥取砂丘に到達した。（105Km）

途中、3ヶ所の峠越えと、（観光登山であるが標高差300mの）三徳山三仏寺投入れ堂往復があり、少々きびしいコース設定になったが、全員往年の粘りを発揮して無事完歩した。

歩行の初日（10月31日）は標高約1kmの大休峠越え。この道は大山寺の信徒たちの寄進で拓かれ、大山寺への参拝者や大山寺門前で牛の競り市に馬喰たちが牛を曳きながら往来したと伝えられる古道で、いまも当時の石畳が残っている。天候がよければ何でもないハイキング道であるが、あいにくの雨もようで、小さな沢筋から水が噴出して足元がわるく難渋した。

三徳路（三朝～三徳山～佐谷峠）は昔まだ日本海岸沿いの道が整備されるまえは山陰の幹線道路で、全国測量をして日本地図を作った伊能忠敬もこの道を通ったと言われる。いまは自動車も通るが、かなり勾配のある登り道である。佐谷峠を下って中国自然歩道は鹿野町の鷲峰山（920m）頂上を經由するが、我々は裾野の鹿野街道を歩いて鹿野町に入った。

鳥取砂丘へも自然歩道に沿う予定であったが、宿（鳥取駅南）にチェックインをすませてから行こうということになり、湖山池のあとは自然歩道と分かれて、布施運動公園前、鳥取駅前を經由して鳥取砂丘に向かった。

歩行方法

倉吉市長、関金支所長訪問などの時間を確保するため、2日目（11月1日）は2組に分かれ、友松が西倉吉から、他4名が明高から出発。関金支所で合流した。他はすべて1組で順方向へ歩行した。

初日の大休峠越えは予想外に時間がかかり体力を消耗したので、一向ヶ平（なる）バーベキューハウスの主人の好意で軽トラを出してもらい、江守さんに関金のホテルまで乗ってもらった。

また友松は、翌日三朝温泉手前でマメをつぶしてしまい、11月2日と3日の午前中は歩行から離脱。友松和子に車で運んでもらい、3日の午後から復帰した。友松和子は明高⇒関金、三徳山⇒佐谷峠を歩き、他の日は車で荷物の運搬をした。

自然と観光

大山・隠岐国立公園を出発地点に、三朝東郷湖県立自然公園、西因幡県立自然公園、山陰海岸国立公園と全コース、国・県立自然公園のなかを歩いた。紅葉の盛りにはすこし早かったが、秋の深まった山、里道は、車の往来もなく気持ちよい歩行ができた。

途中通りすぎた関金町、倉吉市、三朝温泉町、鹿野町はいずれも自然と調和した昔ながらの風情を残したレトロの町で、普段の喧騒のなかでの生活をわすれさせ、静かな時のながれを感じさせた。

圧巻は三徳山である。お世話になった三仏寺の米田住職が書いてくださった詩文「千年のいのり」の「山はおのれを磨く城、今も昔も修業道、投入れ堂に試練

あり」の一節のとおり、厳しい山岳仏教の地である。そこに一泊し、夜ゆっくりとお話しを伺えたのは一生の思い出である。

大休峠越え

標高 1 千米の大休峠越はぶな林のなかを細々とつづく大山古道。途中、日本滝百選の一つ大山滝、吊橋など変化に富んだコースであるが、あいにくの悪天候で大山や烏ヶ山などの眺望がなく、足元がわるく難渋した。(10月31日)

旧倉吉線跡地

30 年ほど前に廃線となった跡地の一部を歩いた。時間がなかったので、トンネルに入ることはできなかったが、当時の線路も残っており、小さな蒸気機関車に曳かれた列車の姿を思い浮かべていた。(11月1日)

倉吉市役所 (打吹公園)

同市庁舎は全国でもめずらしく、自然の森に囲まれた公園に立地している。同公園は標高 150m ほどの打吹山全域に広がる自然公園で、天女が舞い降りたという伝説がある。頂上に城跡、中腹に古刹天台宗長谷寺があり、麓には美術館などの施設が配置されている。(11月1日)

倉吉白壁土蔵群

市内を流れる玉川沿いに、江戸・明治期の古い商家の町並みが続く。古い酒蔵や醤油蔵のあいだをのんびり歩いていると、時間の経つのも忘れてしまいそう。映画「男はつらいよ」や「鳥かえる」などの舞台になった。

町家「豊田家住宅」に上がり、歴史講談「淀屋の光と影」を聴いた。大阪の淀屋橋の由来である淀屋が取り潰されたとき、倉吉の牧田がこれを助け、淀屋を再興した経緯を講談で聴かせるもので、たいへん面白かった。(11月1日)

三朝温泉

三朝川の谷あいにある温泉地。河原に露天風呂があり、川風に吹かれながら温泉にゆっくりと手足を伸ばした。

露天風呂のわきの三朝橋の上で、映画「恋谷橋」のロケーションがあり、上原多香子さんのほっそりとしたかれんな姿を見ることができた。(11月2日)

小鹿溪谷

三朝東郷湖県立自然公園のなかの美しい溪谷。コースではないが、遊歩道を約 1 Km ほどを歩いた。清らかなせせらぎの途中に小さな滝と淵が次々と現れ、変化に富んだ景観を楽しんだ。(11月2日)

三徳山三仏寺

三佛寺は天台宗修験道の古刹。麓には三院（輪光、正善、皆城）と本堂が位置し、本堂の裏の宿入橋（しくいりはし）から背後にそびえる岩山の急勾配を利用して多数のお堂が建てられている。文殊堂、地藏堂、納経堂とつづき、一番奥に投入堂が断崖絶壁に建つ。その奇跡のような姿に、役行者伝説が今もなお語り継がれている。(11月2日)

鹿野町

戦国武将亀井茲矩が城主の鹿野城の城下町。鹿野の町並みは今なお当時の

面影を残しており、京風千本格子や白壁の家並み、縦横にめぐらされた水路など心地よく気品の漂う町である。

近年、廃校になった小学校の体育館に手作りの劇場がつくられ、劇団「とりの劇場」が外国遠征や日本・中国・韓国合同演劇祭を開催するなど、レベルの高い演劇活動を活発に続けており、町の活性化を後押ししている。(11月3日)

吉岡温泉

山間の静かな温泉場。

江戸時代には藩主池田侯の湯治場として栄えた。道路わきの足湯につかりながら、地元のおばあさんと話がはずんだ。(11月3日)

湖山池

周囲16Kmの美しい潟湖。湖山長者が、田植えを1日で終わらせようと沈む太陽を金扇で呼び戻したが、翌日、田は湖になってしまったという「湖山長者伝説」が残っている。湖畔の宿レーク大樹に宿泊した。(11月3日)

鳥取砂丘

山陰海岸国立公園の西端にある日本最大の砂丘。鳥取県の代名詞的な観光地である。観光客が行かない鳥取大学乾燥地研究所側から入り、あまり足跡のついていない砂丘地を観た。砂美術館があり、毎年春に世界の砂彫刻家が集まって、その年のテーマに沿って砂像をつくり、一般公開している。(11月4日)

鳥取市内

城下町とっとり交流館、樗谿神社、仁風閣、わらべ館等を見学した。

わらべ館は「童謡唱歌とおもちゃ」のミュージアムである。館内に昔の小学校の教室が再現されており、そこで館員の若い女性のオルガン伴奏で、「気ままな旅人」を合唱した。(11月5日)

食べ物・酒・その他

11月2日の三徳山輪光院で出された地元の古酒「白狼」は本年(2010年)4月、ロンドンにおける世界ワインコンテストで日本酒/古酒の部で金賞を受賞した、日本酒と思われない味わいの絶品であった。しかも仕込んだのが1996年、つまりユーラシアを歩く会がロンドングリニッジ天文台から第1歩を踏み出した年であるという付録つき。

食事中はだれも気づかなかったが、食後、蔵元のパンフレットを読んでいた横山さんがそれを見つけ、大騒ぎになった。この贅沢な古酒が米田住職の奢りとなり、一同恐縮するばかりであった。

5. 人々との交流の記録訪問先

1. 一向平（なる）バーベキューハウス

雨の峠越えで足元がわるく、予定をかなり遅れて一向平に到着。バーベキューハウスで昼食をとったあと、体調を崩された江守さんにタクシーを呼んでもらうことにした。キャンプ場の管理人に頼んで電話で予約しているとハウスのご主人（横山俊博さん）がやって来て「自分が車で送るから」と、タクシーをキャンセル。軽トラで関金のホテルまで走って頂いた。（10月31日）

2. 倉吉市関金支所

明高出発組と西倉吉出発組の合流場所に利用させていただいた。
福井支所長には県中部の情報を提供いただき、宿泊等の便宜をはかっていただくなど、たいへんお世話になった。エッセイ集献納（11月1日）

3. 倉吉市役所

石田市長、小田図書館長にお会いした。江守さんから、ユーラシアを歩く会の実績等をお話した。エッセイ集献納（11月1日）

4. 三徳山三仏寺

足を痛めた友松を除き、江守、鹿島、横山の3名が投入れ堂を参拝し、輪光院に宿泊。夜、米田良中住職とお酒を酌み交わしながら三徳山の縁起など楽しいお話を伺った。各界の有名人が記帳されている芳名録に記帳させて頂く。翌早朝にはお勤めと法話があり、朝食をすませ、ご夫妻のお見送りを受けて出発した。前夜頂いた古酒はご住職の奢りと言われ、一同感激。

後日、江守さんが寄進をされた。（11月2日）

5. とりの劇場（鹿野町）

同名の劇団「とりの劇場」の武中信彦さん、中川玲奈さん他の皆さんにお会いし、劇場内部を見学した。劇場は廃校となった鹿野小学校の体育館を借り、団員とボランティアが手作りで劇場に改装している。

質の高い演劇活動を通して県外、海外遠征をしたり、国際演劇祭を開くなど地域活性の原動力になっている。（11月3日）

6. 城下町とっとり交流館（鳥取市）

通りすがりに建物の案内板を読んでいると、責任者の坪内さんが（開館前の準備中であつたが）戸を開いて、招き入れてくれた。

古い商家（有形文化財）で、一室で県内の有形文化財のパネル写真が展示されていた。（11月3日）

7. わらべ館（鳥取市）

長嶺係長と平緒さんに案内して頂いた。館内に昔の小学校の教室が再現されており、予め送った楽譜で平緒さんにオルガン伴奏をしていただき、鳥取の歌「ふるさと」やテーマソング「気ままな旅人」を合唱した。

道中、歌う機会がなかったが、最後の晩に横山さんの提案で練習をし、当日の本番ですばらしいハーモニーを館内に響かせた。

6. 健康・安全面の記録

友松が足のマメをつぶしてしまい、11月2日の終日（三朝⇒佐谷峠）と3日午前中（佐谷峠⇒鹿野町）をリタイヤした。

大休峠越えの雨で足がふやけてしまったのが原因。 出血もあったので大事をとったが、温泉に漬けたのがよかったのか、快復が早く、鹿野町から歩行に復帰した。

7. 総費用

個人	ANA	50,000
	宿泊費、食費	55,000
		—
	その他	5,000
	合計	110,000

グループ		
	合計	

8. 記録写真・ビデオなど



■ 出発点／大山川床



■ 大山古道／大休峠越え



■ 一向平バーベキューハウス
／左から三人目が横山俊博さん



■ 倉吉市関金支所
／右から三人目が福井支所長



■ 倉吉豊田家住宅
／歴史講談（講釈師友森智恵子さん）
「淀屋の光と影」



■ 倉吉市
／石田市長（中央）
小田図書館長（左）



- 三朝温泉露天風呂
／三朝川河川敷にあり、囲いはない
つまり通行人から丸見えである



- 小鹿溪（三朝川支流）



- 三徳山三仏寺投入れ堂
／絶壁の中腹、徒歩では行けない



- 三仏寺輪光院にて夜半まで歓談
／右端が米田住職



■ 鹿野町入口 (気品の漂う城下町)



■ 鳥の劇場の皆さんと
／左端が武中さん、赤い服が中川さん



■ 吉岡温泉の足湯に浸かりながら
地元の方と楽しいおしゃべり



■ 湖山池風景



■ 鳥取砂丘（乾燥地研究所側より）
／向こうに見えるのは横山さん



■ 鳥取砂丘バス停（今回の終着点）



■ 鳥取城跡（仁風閣）



■ わらべ館（小学校教室）
／気ままな旅人を合唱